

令和7年度指定管理者評価シート

1. 管理運営の状況等

(1)施設名	大崎公園・その他緑区無料公園					
(2)施設概要	1. 大崎公園 ①所在地:さいたま市緑区大崎3170-1 ②施設の設置目的:休憩、散歩、遊戯、運動等の場を提供し、自然環境の保全、都市景観の向上、都市環境の改善、都市の防災性の向上、生物多様性の確保、地域交流の場の提供などを目的とします。 ③施設の概要:面積:4.80ha 主な施設 子供動物園・修景池・じゃぶじゃぶ池・花時計・芝生広場・幼児用遊具広場・築山・管理棟・トイレ・駐車場 2. その他緑区無料公園 ①所在地:さいたま市緑区内各所 ②施設の設置目的:休憩、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用、公害又は災害を防止、緩衝地帯風致の享受の用、動植物の生息地又は生育地である樹林地等の保護、市街地の中心部における休息又は観賞の用に供することを目的とします。					
(3)指定管理者	株式会社ワールドインテック					
(4)指定期間、指定管理料	①指定期間 令和6年4月1日～令和11年3月31日 ②指定管理料(直近3か年) 令和6年度278,300千円、令和7年度282,227千円					
(5)施設の管理運営の内容	①運営業務の状況(利用状況含む) ◇利用状況 大崎公園 ・利用者数116,716人(前年度140,731人) ◇業務実施状況 施設維持管理業務／子供動物園維持管理業務／利用者受付業務 業務仕様書及び事業計画書による業務 ②維持管理業務の状況 建物等保守管理業務:大崎公園・子供動物園 公園施設の保守管理業務:園路、広場、修景施設、休養施設、遊戯施設、便益施設、管理施設等 定期清掃業務:大崎公園、子供動物園、園内等 植栽管理業務:高木剪定、低木剪定、花壇等 その他緑区無料公園:施設維持管理業務、利用者受付業務、植栽管理業務 等 ③その他の業務 【市民協働事業】園内ハーブ園の維持管理等(浦和ハーブ友の会／見沼氷川公園) 新見沼大橋スポーツ広場ドッグランの運営・管理 【施設整備】街灯のLED化(10基)、ベンチ計画修繕(43基)、自動販売機増設(8台)、 防犯カメラ増設(7台:既存2公園・新規5公園) 【拠点一元化】さき山記念公園から見沼自然公園へ事務所を移転し、利用受付窓口を一本化					
(6)収支状況	収入(費目)	収入(金額)	前年度	支出(費目)	支出(金額)	前年度
	利用料金収入	265千円	(103千円)	人件費	91,407千円	(86,387千円)
	指定管理料	282,227千円	(278,300千円)	事務費	68,983千円	(84,528千円)
				施設管理費	122,530千円	(116,998千円)
	【自主事業】					
	収入	9,732千円	(9,319千円)	支出	9,697千円	(8,910千円)
(7)利用者アンケート等による市民からの意見・要望等への対応	○大崎公園子供動物園では、動物の充実を求める要望に対応し、令和6年度に羊・うさぎ・モルモットを導入。令和7年度は新たにカンガルーの導入を検討(令和8年度導入予定)し、利用者満足度の向上に努めた。 ○令和7年度は利用者アンケートを複数回実施し、工作体験・自然観察イベント等の開催要望に対応(しおり作り、サシェ作り、自然観察会等)、公園の利用促進に努めた。 ○園内街灯について、明るさに関する要望を受け、LED照明への更新を随時実施(街灯10基)。 ○さき山記念公園から見沼自然公園へ事務所を移転し、利用受付窓口を一本化。一次対応から自社職員が行うことで市民サービスを向上した。 ○大崎公園・見沼自然公園にキッチンカーを配置し、飲食サービス・利便性の向上を図った。					
(8)その他						

2. 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進について	○維持管理職員が作業・巡回時に、街区公園の課題・要望・意見を聞き取り、迅速に対応した。 ○大崎公園では利用者ニーズを反映した動物の導入(R6うさぎ等、R7カンガルー検討、R8導入予定)やイベント・自主事業を実施した。 ○SNSを積極的に活用し定期更新(約8回／月)、HPと併せて情報発信・広報活動を行った。 ○キャッシュレス決済を導入し、利便性向上に努めた。 ○自動販売機を8台、防犯カメラを7台増設し、市民サービスと公園利用環境の質を向上させた。 ○自主事業で得た利益は、見沼自然公園の管理事務所を修繕、外壁塗装などに還元し、事務所移転を実施した。一次受付から自社社員が対応することで、市民サービスの向上につながった。また、事務部門と維持管理部門の物理的に近くしたことにより、クレーム処理の速度と情報共有度が上がり、スムーズに利用者対応ができた。
市民協働事業	○ハーブ園の維持管理等(浦和ハーブ友の会／見沼氷川公園) ○新見沼大橋スポーツ広場ドッグランの運営・管理 ○地元専門学校のインターン実習、地元中学校の職業体験を受け入れた。
経費縮減の考え方	○除草・樹木管理・清掃の内製化を拡大し、直営作業による経費削減を図った。 ○ベンチの修繕を自社社員で実施し、経費削減を実現した。 ○障がい者雇用を積極的に実施(10名)し、当社独自の雇用体制のもと人件費の削減を図った。 ○剪定枝は管理施設内のリサイクル施設へ持込み、堆肥化して花壇等に再利用した。 ○経費削減による収益は主に各公園の修繕に投資した (修繕費／指定管理料 6.9%、事務所移転、改修費用を含めると8.6%)。
適正な管理運営の確保について	○維持管理業務の内製化の特性を活かし、利用者からの要望や破損を現地で聞き取り、支障枝の除去・駆虫等の即時対応や被害の最小化に努めた。 ○大崎公園では飼育業務を時間割レベルまで落とし込み、社内全施設参加の「動物生活向上委員会」(月1回)で情報共有・現場セルフチェックを実施した。 ○計画修繕としてベンチ43基を修繕し、安全性・利便性を向上した。 ○公園整備課からの指示案件に対する速やかな対応に務めた(3日以内の一次対応100%)
危機管理体制について	○荒天・落雷時には公園巡回班・復旧作業班を編成し対応に努めた。 ○刈払機取扱作業従事者10名、伐木等特別教育7名を取得し、職員の安全・スキル向上を図った。 ○WBGT(暑さ指数)計測・飲水チェック表によるチェック等、酷暑による熱中症対策を講じた。 ○普通救急救命講習Ⅰを受講し、救命時の心構え、心肺蘇生法・AEDの使用法等を学び、救急救命意識向上に努めた。 ○各公園の維持管理上の危険箇所を公園Note(アプリ)でデータ化し、朝礼で当日に作業する公園の危険箇所と対策を共有した。 ○枯損木・枯枝・支障枝の伐採を計画的に実施し、安全確保に努めた。 ○公園遊具は専門業者による定期点検に加え、自社職員による月1回の点検を実施し、不具合の早期発見と修繕対応により安全を確保した。

3. 評価

(1)指定管理者による評価

①市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進について ・大崎公園子供動物園では、利用者ニーズを踏まえた動物の充実を進めるとともに、しおり作り・サシェ作り・自然観察会等の体験イベントを継続的に開催し、来園動機の創出と利用促進に努めた。 ・利用者アンケートを年間複数回実施し、その結果をイベント企画や施設整備に反映するPDCAを徹底した。 ・利用者の多い公園にキッチンカーを配置して飲食・休憩の利便性を高め、キャッシュレス決済の導入により支払いの利便性も向上させた。夏季は経口補水液を常備し、利用者・職員双方の熱中症対策に努めた。 ・SNSを定期更新(約8回／月)し、ホームページと併せて公園の魅力やイベント情報を積極的に発信した。 ・地元専門学校のインターン実習や地元中学校の職業体験を受け入れ、地域・教育機関との連携を深めた。 ・自主事業で得た利益は、見沼自然公園の管理事務所を修繕、外壁塗装などに還元し、事務所移転を実施した。一次受付から自社社員が対応することで、市民サービスの向上につながった。また、事務部門と維持管理部門の物理的に近くしたことにより、クレーム処理の速度と情報共有度が上がり、スムーズに利用者対応ができた。 ②経費の縮減について ・除草・樹木管理・清掃の内製化を拡大し、直営作業の比率を高めることで外部委託費の縮減を図った。 ・ベンチ修繕(43基)を自社社員の直営で実施し、計画修繕に要する経費を大幅に縮減した。 ・障がい者雇用を積極的に推進(10名)し、当社独自の雇用・育成体制のもとで適正な人員配置と人件費の効率化を実現した。 ・これらの縮減により生み出した原資は主に各公園の修繕に再投資しており(修繕費／指定管理料 約7.0%、事務所移転・改修費用を含めると約8.6%)、サービス水準の維持・向上につながられた。
③適正な管理運営の確保について ・維持管理業務を内製化している強みを活かし、利用者の要望や施設の破損に速やかに対応した。 ・公園維持管理は作業計画に基づき実施し、天候・進捗に応じて計画を適宜補正しながら、年間を通じて業務仕様を確実に履行した。 ・大崎公園の飼育業務は時間割レベルまで手順を標準化し、社内全施設が参加する「動物生活向上委員会」(月1回)で情報共有と現場セルフチェックを行い、動物福祉と来園者の安全を確保した。 ・さいたま市(公園整備課)からの指示案件には速やかに対応し、3日以内の一次対応100%を達成するなど、所管課との緊密な連携体制を構築できた。 ④危機管理について ・荒天・落雷・強風時には公園巡回班を編成し、巡回点検と復旧作業を最優先で実施することで、危険箇所の早期発見と二次被害の防止に努めた。 ・職員のスキル・安全意識の向上を図り、刈払機取扱作業従事者10名・伐木等特別教育7名の資格を取得したほか、普通救命講習Ⅰを受講し心肺蘇生法・AEDの使用法等を習得した。 ・酷暑期はWBGT(暑さ指数)の計測と飲水チェック表による管理を期間中、毎日実施し、熱中症の未然防止に努めた。 ・各公園の維持管理上の危険箇所を公園Note(アプリ)でデータ化し、朝礼で当日作業する公園の危険箇所と対策を共有するなど、情報の見える化による危機管理を推進した。

(2)さいたま市の評価(評価担当課:都市局みどり公園推進部南部公園整備課)

総合評価(B)※A～D

1 項目別の評価

①市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進については、動物園機能の充実や体験型イベントの継続的な実施により来園動機の創出に努めるとともに、アンケート結果を反映したPDCAの徹底により市民ニーズに即したサービス向上が図られている。また、キッチンカーやキャッシュレス決済の導入、熱中症対策の実施など利用環境の改善に積極的に取り組んでいる点は評価できる。さらに、SNS等による情報発信や地域・教育機関との連携強化、自主事業収益を活用した施設改善や業務体制の見直しにより、利用促進とサービスの質の向上が総合的に推進されている。

②経費の削減については、除草・樹木管理・修繕等の内製化を推進し、外部委託費の削減を着実に実現しているほか、ベンチ修繕の直営実施などにより計画修繕費の抑制が図られている点は評価できる。また、障害者雇用の推進と人員配置の最適化により、社会的配慮と効率的な人件費運用の両立を図っている。加えて、削減により生み出した財源を修繕費等に再投資し、サービス水準の維持・向上につなげている点は評価できる。

③適正な管理運営の確保については、内製化の強みを活かした迅速な対応体制の構築や、計画的かつ柔軟な維持管理の実施により、仕様書に基づく業務が確実に履行されている。特に、動物飼育業務における手順の標準化や定期的な情報共有・点検体制の整備により、安全性と質の確保が図られている点は評価できる。また、市からの指示案件に対する迅速な対応に見られるように、連携体制も良好であり、全体として適正かつ安定した管理運営が行われている。

2 総合評価

動物園機能の充実や体験イベントの実施、SNSを活用した情報発信の強化、地域・教育機関との連携による利用促進の工夫があり、市が求める水準を満たしていることや、また、内製化による経費削減と修繕への再投資、迅速な対応体制の確立により、サービスの質と適正な管理運営がバランスよく実現されている点から総合評価をBとした。

(3)来年度の管理運営に対する指導事項等

引き続き、サービス内容の充実や、利用者のニーズ把握に努めるとともに、適切な施設の維持管理及び計画的な修繕を実施するよう指導していく。